

# 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和4年3月16日（水）午前9時30分から

会 場：アオーレ長岡東棟4階 大会議室

## 【会見項目：令和4年4月1日付け人事異動について】

### （市長）

令和4年4月1日付の人事異動について説明します。

新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、今後の大きな社会変化を見据え、人口減少・少子高齢化、地方分散の流れ、デジタル技術の活用、産業の振興などの諸課題に対応し、誰もが暮らしやすく安心安全なまちづくり、行政サービスの高質化に取り組んでいきたいと考えています。これらのために、適材適所の人事異動を行うものです。

組織の活性化を図るため、長期に在課している職員の配置転換や若手職員の人材育成のための人事ローテーションを積極的に行いました。

採用・退職などを除く実質的な異動は717人という規模になりました。

人事異動の概要について説明します。

項番1は、来年から段階的なオープンを迎える「米百俵プレイス ミライエ長岡」に関する人事です。地方創生推進部に新設するミライエ長岡担当部長に、これまで再開発事業に携わってきた五十嵐中心市街地整備室次長を登用します。また、産学官金の連携を一層推進するため、商工部に部次長を配置し、斉藤産業イノベーション課バイオエコノミー担当課長を登用します。そして、産業イノベーション課に新設するN a D e C推進室長に、関係機関との調整力の高い人材を登用しました。

項番2は、行政デジタルトランスフォーメーションの推進のため、総務部に行政DX推進担当部長を新設するもので、新沢政策企画課長を登用しました。

項番3は、女性が活躍できる環境づくりを進めるためのもので、地方創生推進部に女性活躍推進担当部長を新設し、茂田井市民協働推進部長を充てました。このほかに、新たに部次長級1人、課長級4人、課長補佐級9人の計14人の女性職員を新たに登用し、女性職員の管理職への登用率は、昨年の12.5%から1.4ポイント上がり13.9%になる見込みです。

項番4は、本庁と支所との連携を強化し事務の効率化を高めるとともに、支所地域における住民サービスの向上を図り、政策や事業に地域の実情や課題を活かしやすい組織とするため、実務に長けた職員を支所長に登用しました。また、組織の若返りを図るため、20代から30代前半の若手職員を各支所に配置しました。

最後に、課長補佐級以上の人事異動の詳細については、別冊のとおりです。

地方分散の受け皿として、選ばれるまちとなるために、新たな体制で部局間の連携を図りながら、市政の諸課題に対してスピーディーかつ的確に対応していきたいと考えています。

(記者)

女性が活躍できる環境づくりのため、女性職員の登用に力を入れていると思いますが、今回の人事の手応えや所感をお聞かせください。

(市長)

優先して女性職員を登用するのではなく、能力と実績に応じて平等に登用することを基本にしながら、政策の立案過程、実施過程の中で、女性職員の力をできるだけ引き出していきたいと思っています。女性ならではの感覚をあらゆる仕事の中で活かせるよう、組織的に取り組んでいきたいと思っています。

産業、文化、芸術など、どの分野でも存在するジェンダーギャップやジェンダーバイアスなどに対して、市としてできることは積極的にやっていきたいと思っています。

(記者)

女性職員の管理職への登用率をこのくらいにしたいなど、イメージしている数字はありますか。

(市長)

イメージしている数字はありませんが、女性であるために登用が遅くなることは絶対にあってはならないと思っています。能力や実績を踏まえながら登用することになりますが、結果的には、職員の男女比率と同じような比率になっていくべきものだと思います。

(記者)

女性職員の登用率13.9%は、長岡市として過去最高ですか。

(市長)

はい。

## 【その他の項目】

(記者)

県知事選挙が近づいていますが、市長はどなたを支援するお考えでしょうか。

(市長)

私は党派を超えて市民の皆様からご支援いただき長岡市政を運営しています。このため、国政選挙の場合も含めて、特定の候補を推すという立場には立たないつもりです。

(記者)

市長としての現職の花角知事に対する評価をお聞かせください。

(市長)

私の知り得る限りの歴代の知事の中で、これほど県民の皆様や私のような首長の意見を聞いて

くれる知事はいないのではないかと考えています。それらを生かしながら県政運営をしていることは高く評価しています。

新型コロナウイルス対策やワクチン接種において、PCR検査や大規模接種など、私から様々な要望・提言しましたが、それらについて県と市の折り合いをつけて支援いただいたと思っています。

ただしポストコロナ戦略は十分に見えてこない面がありますので、これからの県政の大きな課題になると思っています。

(記者)

柏崎刈羽原発の再稼働問題について、次期知事に望むことを教えてください。

(市長)

県が行っている三つの検証を終え、結果を県民にわかりやすく説明しながら、県民や県内自治体の意見を踏まえて判断していただきたい。特に半径30km圏内の自治体の意見については、重く受けとめて判断につなげてもらいたいと思っています。

(記者)

バスケットボールBリーグの改革が予定されており、B1リーグに残るためには、集客数や売上高、アリーナの席数など厳しい条件がありますが、市としてアルビレックスBBへの支援を考えていくのでしょうか。

(市長)

アリーナの仕様、キャパシティーについては、何としてもクリアしたいと思います。

集客数や売上高については、市が介入できる問題ではないと思っていますが、市民の皆様がこぞってアリーナに足を運んでもらえるような動きはやっていきたいと思っています。

(記者)

3月24日に長岡東西道路の残りの整備区間が開通することに対する市長の所感と、今後の道路整備の展望についてお聞かせください。

(市長)

いよいよ長岡東西道路が長岡東バイパスに繋がり、長岡市がイメージしてきたラダー型の交通網が完成することになります。今後は、フェニックス大橋の4車線化に、どういうタイミングで取り組んでいくかということが課題になると思います。

実際の交通状況を見極めながら、新年度から検討していきたいと思っています。

(記者)

市政について、今年度1年間の振り返りと、来年度への意気込みをお聞かせください。

(市長)

新型コロナウイルスに翻弄された1年でしたが、ポストコロナの政策を進めること、あるいは予算編成で進める準備を十分できたと思っています。そして、ポストコロナの象徴として長岡まつり大花火大会ができるといいと強く思って準備を進めています。

(記者)

ロシアのウクライナ侵攻について、3月4日に市長メッセージを出されていますが、今後、長岡市として具体的な行動に移す予定はありますか。

(市長)

今の時点で予定はありませんが、戦争が長引きウクライナからの避難者が増え日本でも受け入れることになれば、長岡市でも受け入れていきたいと思っています。

(記者)

大花火大会が開催できることになった時は、平和への特別なメッセージを出される考えはありますか。

(市長)

平和への想いが込められた長岡花火です。花火を打ち上げ、世界に向けて強いメッセージを出していきたいと思っています。